地 域 連 携

# はびきの Medical Net

Vol.08
January.2024

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪はびきの医療センター
Osaka Habikino Medical Center

## FUTURE 糖尿病・内分泌内科

## 2型糖尿病の病態と最新治療

・**Pick Up** ICT（感染対策チーム）・AST（抗菌薬適正使用支援チーム）
・**セミナーのご案内** 第21回 産婦人科勉強会＆第17回はびきやま産婦人科セミナー ほか
・**学会報告さるーと** 日本皮膚科学会第500回記念大阪地方会
日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会
・**はびきのパーソン** 医務局 事務局
・**連携医療機関のご紹介** 石田診療所さま きのした整形外科さま
・**地域医療連携 NEWS** 呼吸器疾患のより充実した診療を目指して

# 2型糖尿病の病態と最新治療

糖尿病・内分泌内科　主任部長

樫根（かしね）　晋（すすむ）

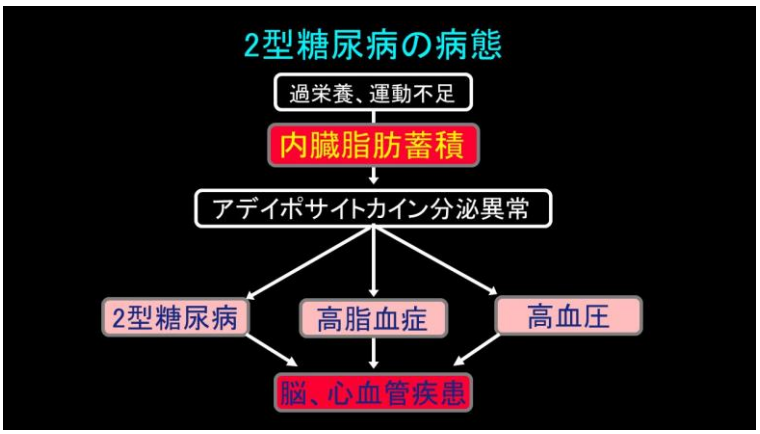
## ○平安時代から日本人は糖尿病に悩まされてきた。

今年の大河ドラマは『光る君へ』であり、平安時代を舞台とした貴族社会が描かれていますが、私は医師として平安時代の貴族の生活に大変興味を持っています。いろいろと調べてみますと平安時代の貴族の生活と今の我々の生活の間には実はたくさんの共通点があることが分かります。

塩分の多い食事、炭水化物過剰、運動不足などの点は現在と共通した平安貴族の生活習慣です。あまり知られておりませんが、平安時代の貴族社会では糖尿病は一般的であり、藤原道長も彼の残した日記から糖尿病であったといわれています。糖尿病は平安時代から日本人を悩ませる病気でした。

## ○2型糖尿病の基本病態

過栄養、運動不足はなぜ悪いのでしょうか。脂肪組織は以前は単に脂肪を蓄積するだけの臓器と考えられていましたが、多くの研究によって多彩な生理活性物質を分泌する内分泌臓器であることが明らかになっています。それらの生理活性物質はアディポサイトカインと言われており、生体においてエネルギー代謝、摂食行動などに重要な働きをしています。




（図1）

肥満状態では、それらのアディポサイトカインの分泌異常が生じ、インスリン抵抗性、血管内皮機能障害、脂質代謝異常をきたすことが様々な研究で明らかになってきました。結果、糖尿病、心筋梗塞や脳梗塞などの血管の病気を発症する高リスク状態となります。（図1）

# 2型糖尿病の病態と最新治療

当センターの
糖尿病・内分泌内科の
詳細はこちらより
ご確認できます

平成12年卒　大阪大学医学部附属病院にて内科研修開始。
りんくう総合医療センターを経て令和5年当センターへ赴任。
糖尿病、内分泌疾患を専門としている。
糖尿病専門医・指導医、内分泌代謝科専門医・指導医

## ○2型糖尿病治療の最近の動向

運動不足、過栄養は適切な食事、運動療法を行うことにより、改善することが知られており、2型糖尿病治療においては、血糖管理の適正化とともに体重のコントロールを行うことは最も重要なこととされています。

しかしながら、体重のコントロールはこれまでわたしたち糖尿病に関わる医療者を悩ませてきました。本来飢餓の時代を生き抜いてきた我々の遺伝子は体重を減らすことを簡単には許してはくれません。減量は長い間最も介入の難しい医療問題でした。しかし最近登場したSGLT2阻害薬、GLP1作動薬といった薬物が、体重のコントロールに有効であることが明らかとなってきました。SGLT2阻害薬は腎臓の近位尿細管でのブドウ糖の再吸収を抑制することにより、血糖を低下します。結果的におにぎり1.5個分ぐらいのブドウ糖が尿から排泄されることになり、血糖低下および体重減少を来すことが明らかになっております。GLP1作動薬は食事に伴うインスリン分泌を増加させ、血糖を低下させるとともに、胃の蠕動運動抑制などから食欲の中枢に働きかけ、食欲低下作用が示唆されています。

## ○2型糖尿病治療の未来

私は2型糖尿病治療には明るい将来が待っていると考えております。これらの薬のもたらすメリットは糖尿病の食事療法にある程度のゆとりをもたらすことが可能であると考えております。

血糖コントロールが難しい患者さんでも上記のような薬剤にて血糖コントロールが改善することを我々は多く経験してきました。糖尿病のコントロールの難しい患者様がおられましたら是非ご紹介いただけますと幸いです。

＼ Pick Up ／

# ICT( 感染対策チーム )
# AST( 抗菌薬適正使用支援チーム )

## ICT（感染対策チーム）

ICT とは感染対策チーム（Infection control team）の略で、 院内で起こる様々な感染症から患者さんや職員の安全を守るために活動する組織で、 医師、 看護師、 薬剤師、 臨床検査技師（細菌検査室）、 事務職員で構成されています。

## 院内への取り組み

全診療科の医師、 認定看護師、 認定薬剤師、 認定検査技師、 事務職員を含む病院横断的な組織であり、①全部署・全スタッフを対象とした「ICT ラウンド」、②「コンサルテーション」、③薬剤耐性菌、抗菌薬長期投与例や医療関連感染の「サーベイランス」と、④全部署を対象とした「環境衛生」、⑤手指衛生や抗菌薬適正使用などの「病院感染防止」、⑥ワクチン接種、 針刺し対策などの「職業感染防止」の教育と徹底により、 感染対策に関する意識向上に努め、「病院内での感染症発生を可能な限りゼロにするぞ！」を合言葉に、「職員一人一人の、 薬剤耐性菌の発生と伝播、 病院感染症および自らの職業感染の発生を予防できるレベルへの到達」を目指しています。

Point!

## 地域への取り組み

地域の感染防止対策加算１の施設基準を取得している施設（他に大阪南医療センター、 富田林病院、 PL 病院、 城山病院）と共に「南河内感染対策ネットワーク」を立ち上げ、 加算２および ３の施設との連携会議、 主要施設間での感染対策相互チェック、 ネットワーク全体での研修会等、 地域内の施設間連携と地域全体の感染対策レベルの向上に努めています。

また、令和２年度に藤井寺保健所による「院内感染対策ネットワーク」及び「施設内感染対策ネットワーク」事業の開始当初から、積極的に参加・協働し、地域の医療機関や社会福祉施設に対して、標準予防策を始め新型コロナウイルス感染症対策などの助言、 指導を行っています。

さらに地域全体での検出細菌の菌種別頻度と抗菌薬に対する効きやすさの評価（アンチバイオグラム作成）と、 抗菌薬の適正使用の強化を行い、 薬剤耐性菌（AMR）対策に取り組んでいます。

## AST（抗菌薬適正使用支援チーム）

メンバーは医師、 看護師、 薬剤師、 臨床検査技師（ 細菌検査室 ）からなるチームで、 特定抗菌薬の使用患者を対象に主治医とともに抗菌薬のよりよい使用方法について検討しています。

患者さんの症状によっては、 至急の細菌遺伝子検査を行い、 早期から適切な抗菌薬を選択することも可能です。

カンファレンスの様子

# セミナーのご案内

## 2月開催予定

### ◆ 第21回　大阪はびきの医療センター　産婦人科勉強会 ＆　第17回はびきやま産婦人科セミナー

日時：令和6年2月28日（水）17：30～19：00
場所：大阪はびきの医療センター　3階　講堂

診療実績報告：大阪はびきの医療センター　産婦人科　主任部長　赤田　忍
一般演題：「当院でのUAE症例について」
大阪はびきの医療センター　産婦人科　医員　中谷　沙也佳
特別講演：座長　平松産婦人科クリニック　平松　惠三　先生
「産婦人科診療ガイドライン産科編2023
～ガイドラインの解説と四方山話～」
国立循環器病研究センター　産婦人科部　金川　武司　先生

### ◆ はびきのDチャンネルepisode16

日時：令和6年2月22日（木）14：00～15：00
内容等は現在調整中です。

## 開催しました

### ◆ 第37回　栄養士のための大阪食物アレルギー研究会自主研修会（OFAD）

日時：令和5年12月2日(土)　10：00～12：30
場所：堺市役所　本館地下１階　大会議室
参加人数　：52名（内訳：医師　2名、他医療従事者2名
市民　2名、学校関係者　46名）

### ◆ はびきのDチャンネル episode15

日時：令和5年12月21日(木)　14：00～15：00
場所：大阪はびきの医療センター（WEB開催）
参加者：11名
内容：プライマリケアにおける皮膚科診療のTips
(6つの症例をご紹介しました)

# 学会報告　さるーと

**・日本皮膚科学会第500回記念大阪地方会（令和5年12月3日）**
**・日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会（令和5年12月8日～10日）**

当センターでは、研究、学会発表、論文報告を積極的に行っております。
令和5年12月は皮膚科の医師が以下の学会にて、発表を行いました。

●**日本皮膚科学会第500回記念大阪地方会**(令和5年12月3日)
「下腿潰傷周囲の点状紫斑が診断の契機となったシェーグレン症候群の1例」
大阪はびきの医療センター　皮膚科　長塚　由美

●**第53回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会**(令和5年12月8日～10日)
①スポンサードシンポジウム「AD新書～発症機序から考える最新治療とエビデンス～」
長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療update
～レジストリ研究によるreal world evidenceとともに～」
大阪はびきの医療センター　副院長兼皮膚科主任部長　片岡　葉子
②「episodicな下腿の紫斑を契機に診断されたシェーグレン症候群の1例」
大阪はびきの医療センター　皮膚科　木村　優香
③「アトピー性皮膚炎における“寛解”を定義する：第1段階：他疾患の文献的レビュー」
大阪はびきの医療センター　皮膚科　藤田　壮
④「JAK阻害薬の投与により血清TARCの急激な上昇とともに
紅皮症化したアトピー性皮膚炎の1例」
大阪はびきの医療センター　皮膚科　坂本　理佳

学会入口にて藤田医師(左)・木村医師(右)

医務局 麻酔科 副部長

**播磨 恵**
HARIMA MEGUMI

## 「思い立ったら吉日」

こんにちは、麻酔科の播磨です。

今年度、還暦を迎え、恩師や友人が病に倒れた、などという報せを聞くことが増えてきました。「いつかそのうち」なんて言わずに、会いたい人に会い、行きたいところに行かねば、と、遅めの夏休みをとってウイーンに行きました。コロナや介護で遠出できなかったので、3年ぶりの旅行です。新年のテレビでみて、行ってみたいと思っていたウイーン楽友協会の金ぴかホールのコンサートで素晴らしい音色に包まれたり、日本よりカジュアルな感じでオペラ鑑賞をしたり、本場のクリスマスマーケットを楽しんだり、カフェでケーキをいただいたり、休暇を堪能して帰ってきました。

それから、最近始めた「いつかそのうち」なものの一つのレゴ、没入しすぎない様、寝る前30分と決めて、作りはじめました。説明書通りに組むだけですが、大物が形になってくると楽しいものです。（これを組み上げたら次は自然史博物館のキットを狙っています）

ウイーンのクリスマスマーケット

カフェで一息

レゴで作成した
「ダイアゴン横丁」

事務局　新病院整備グループ

**酒井　哲也**
SAKAI　TETSUYA

## 奏者から愛されるマエストロを目指して

１月の新クールより、日曜劇場「さよならマエストロ～父と私のアパッシオナート～」というドラマが始まり、俳優の西島秀俊さんが、天才マエストロを熱演され、俄かに“指揮者”という職業に注目が集まっています。

私は音楽が趣味で、学生の頃から吹奏楽に勤しみ、現在も活動を続けておりますが、5年前に一念発起し、「吹奏楽団ブルーシエル」という楽団を自ら創設しました。ここでは指揮者を務め、約40人の団員を率いて音楽を奏でていますが、レベルも個性も違う奏者を一つにまとめるのは、苦難の連続です。

そうした或る日、前述のドラマを観て衝撃を受けたのが、「指揮者は、奏者の痛みや苦しみが分かる人でなければならない」というマエストロの一言でした。指揮者は自ら音を発しないので、奏者に対して「これくらいのことが出来ないのか！」と、つい自分本位な要求をしてしまいますが、それは奏者の痛みや苦しみを理解していない証拠です。

指揮者は奏者に、いかに“アパッシオナート”を伝えて表現してもらうかに尽きるわけです。自分で音楽を奏でられない無力な存在であることを自覚し、奏者の気持ちを理解し、常に感謝の気持ちを忘れないことが名指揮者の素養なのだと、改めて感じた今日この頃です。

6月30日に第4回演奏会を開催予定です。私たちの“アパッシオナート”を観客の皆さまに感じていただければ、この上ない幸せです。

**当センターでは、個性豊かなスタッフがそれぞれのセクションで明るくがんばっています。今後とも「はびきのパーソン」コーナーで紹介していきますので、少しでも当センターのスタッフに親しみを持っていただけると幸いです。**

呼吸器内科　主任部長
森下（もりした）　裕（ひろし）

当センターの
呼吸器内科の詳細は
こちらより
ご確認できます

平成4年卒　大阪大学医学部附属病院等の勤務を経て、
平成20年より当センターへ赴任。令和5年より現職。
びまん性肺疾患、COPD、呼吸不全など良性の呼吸器疾患を専門としている。
内科学会認定内科医・指導医、呼吸器専門医、医学博士

## 呼吸器疾患のより充実した診療を目指して

当院は昭和27年に大阪府立の結核療養所として設立され、その後大阪府立羽曳野病院、大阪府立呼吸器・アレルギー医療センターと名称変更された後も呼吸器疾患に重点を置いた『呼吸器専門病院』として診療の充実に努めてまいりました。大阪はびきの医療センターと名称が変更され、新病院へ移り多数の診療科が整いつつある現在も、呼吸器診療を行う内科系だけでもかなりの人数のスタッフが所属しており、腫瘍系の疾患が対象の肺腫瘍内科、喘息・慢性咳嗽が対象のアレルギー・リウマチ内科、結核等の抗酸菌感染を主とした疾患が対象の感染症内科、そして下記に述べる呼吸器内科に分かれております。

呼吸器内科は、慢性閉塞性肺疾患や間質性肺炎をはじめとするびまん性肺疾患、急性及び慢性の呼吸不全、様々な肺感染症、さらには睡眠時無呼吸症候群等、多岐にわたる呼吸器疾患の診断及び治療を行なっています。また集中治療科と共同でICUでの治療を行ったり、慢性期の呼吸不全患者への呼吸リハビリテーションを行ったりもしています。

現在でも在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法、CPAPを行っている患者さんも多く、最近では在宅ハイフローセラピーの導入も開始し、在宅酸素療法のみでは対応しきれないCOPD患者への対応を試みております。外来においては呼吸器看護専門外来を併設し、専門性の高い看護師によるセルフマネジメント支援や地域の先生方との連携をはかることで患者さんのQOL向上をめざしたりACP（Advance Care Planning）への介入も行なったりするなど、包括的、全人的呼吸ケアの実践をしています。

間質性肺炎に関しては膠原病をベースにする場合も非常に多く、2名の膠原病専門医とも連携を取りながら診療を進めております。進行性の線維化を伴う病態に対して抗線維化薬が適応になってからは多数の導入症例があり、地域の先生方との連携を試みるパス導入の検討を開始しました。

現在では各呼吸器関連のスタッフが非常に緊密な連携をとって患者様に最善の医療を提供できるような体制づくりを心がけており、専門的対応を要する病態の患者さんがおられましたら、当院の地域医療連携室を通してぜひご紹介ください。よろしくお願い申し上げます。

在宅ハイフローセラピー

# 連携医療機関（登録医）のご紹介

## 石田診療所

〒580-0005　大阪府松原市 別所3-17-22
電話　072-330-5570

小児科と内科・外科・整形外科を2人の医師　約20名のスタッフで、親切丁寧をモットーに、患者さんの視点に立った医療をめざしています。通常の外来と発熱外来の時間を分けて診療しているので　感染予防対策も徹底しています。アイチケットで、予約を取っていただき順番が携帯で把握しやすくなっています。広い駐車場を設けているので、車で順番待ちいただけるところも当院の魅力です。
健康面でご心配なことは、かかりつけ医としてお気軽にご相談ください。

| 診療時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 祝 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8:40～12:00 | ○ | ○ | ○ | ／ | ○ | ○ | ／ | ／ |
| 16:30～19:00 | ○ | ／ | ○ | ／ | ○ | ／ | ／ | ／ |

※土曜日は　8:40～13:00　　※駐車場あり　無料　40台

## きのした整形外科

〒583-0861　大阪府羽曳野市西浦3丁目5-10
羽曳野西浦クリニックビル3階
電話　072-950-0787

整形外科一般・外傷はもちろんのこと、骨粗しょう症やリハビリテーションに力を入れています。
リハビリテーションは理学療法、作業療法、物理療法が可能です。
骨密度測定（DEXA法）や血液検査等による骨粗しょう症の精査、整形外科での手術後のリハビリテーションにも対応しています。気軽にご相談ください。

| 診療時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 祝 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9:00～12:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ／ | ／ |
| 16:00～19:00 | ○ | ○ | ○ | ／ | ○ | ／ | ／ | ／ |

受付時間は、8:50～11:45　15:50～18:45

↑地域医療連携室の詳細はこちら

### ◆登録医のご申請のお願い◆

地域医療支援病院である当センターでは、地域の医療機関と当センターが協力のもと相互の機能を有効に活用し、診療情報の交換などによって医療連携を深め広げることにより、地域全体として患者さんにとってより質の高い医療を提供していくことを目的として登録医制度を実施しています。ぜひ登録をお願いいたします。

ご登録いただきますと、

1. ご紹介いただいた患者さんに入院が必要な場合は開放病床をご利用
2. 今後の研修や勉強会のお知らせはもちろん、
3. 過去の研修、勉強会の動画も閲覧いただくことが可能です。

## 当センターは逆紹介を推進しています

当センターは地域の中核病院として、救急を含めた急性期の患者さん、他の医療機関での治療が困難な患者さんをより多く受け入れる役割を担っているため、これからも逆紹介を推進してまいります。

逆紹介にあたっては、紹介元のかかりつけ医、あるいはご希望の地域の医療機関を提案させていただきますので、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今後は、患者さんにもご覧いただけるよう、院内に登録医の先生方の情報コーナーの設置やホームページから登録医の先生方の情報が閲覧できるように整えていく予定です。

## 受診についてのお願い

◆紹介状をお持ちの患者さんは事前予約に関わらず患者総合支援センター（地域医療連携室）ですべて対応し、スムーズに診察を受けていただけるようご案内いたします。

＊紹介状をお持ちであっても予約がない場合は、診察待ち時間が長くなることや当日受診できない場合もありますので、可能な限り事前に診察や検査の予約（地域予約）をしていただきますようお願いします。

＊ 呼吸器内科、肺腫瘍内科は完全予約制となっております。
（事前ご予約なしの当日受診はできませんのでご了承くださいますようお願いいたします。）

＊ 皮膚科、アレルギー・リウマチ内科、感染症内科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、歯科口腔外科の受診には紹介状が必要となっております。

**地域医療支援病院として紹介・逆紹介をさらに推進してまいります**

私達は、最新の医療水準で、最適な医療サービスを、思いやりの心をこめて提供します。

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪はびきの医療センター
〒583-8588 大阪府羽曳野市はびきの3-7-1
TEL：072-957-2121(代)

＜院内診療科のご案内＞（令和6年1月現在）

呼吸器内科、肺腫瘍内科、感染症内科、アレルギー・リウマチ内科、循環器内科、消化器内科
糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、乳腺外科
産婦人科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器科、整形外科、眼科
歯科口腔外科、麻酔科(髙内　裕司)、集中治療科、救急診療科、画像診断科、放射線治療科
臨床検査科、リハビリテーション科、緩和ケア科、外来化学療法科、病理診断科

ホームページ　Facebook　Instagram　Official LINE